



このパンフレットは、札幌市や地域で行われている「子どものくらしを支える取り組み」を

多くの方に共有していただきたいという思いから作成したものです。

2019年2月2日に開催したシンポジウムの内容とともに、

さまざまな場所・かたちで子どもたちの支援を行っている方々の声を伝えることで、

皆さまの関心を深めていただけるきっかけになることを願っています。

子どものくらしを支える取り組みの輪がより一層広がっていくよう、

これからも皆さまとともに歩んでいきたいと考えております。

発行元

平成31年(2019年)4月発行

札幌市子ども未来局子ども育成部子どものくらし支援担当課

TEL.011-211-2947 / FAX.011-211-2943

<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/torikumi/taisaku/index.html>



SAPPORO

子どものくらしを 支援する

～今、わたしたちにできること～

すべての子どもは、可能性に満ちたかけがえない存在です。

夢や希望をもって、成長していくことができる

社会であることが望まれます。

子どもたちが、毎日を安心して過ごせるように、

社会全体で子どもを支えていく活動を考えてみませんか。



シンポジウムを開催しました!!

子どものくらしを支えるために――。

北海道、札幌市および北海道大学では、これまで子どもの生活実態に関する調査をはじめ子どもたちが自分らしく成長していくことができる社会をめざして力を合わせた取り組みを行ってきました。

その取り組みのひとつとして開催したのが、子どもが抱える課題や子どもを支えるさまざまな活動を伝え、何ができるのかをともに考えるシンポジウム。

NPO 法人山科醍醐こどものひろば 理事長 村井 琢哉氏による基調講演のほか、北海道内で子どもを支える活動を行っている方々によるパネルディスカッションを通じて、地域のつながりのなかで子どものくらしを支える環境づくりの大切さについて話し合いました。

今、わたしたちにできること。一緒に考えてみませんか。

シンポジウム

「子どもの貧困を考える ～今、わたしたちにできること～」

日時 2019.2.2^土 13:30～16:30

会場 ちえりあ 札幌市生涯学習センター 講堂（6階）
札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10

参加 190人

主催 北海道・札幌市・
北海道大学大学院教育学研究院

基調講演

子どもが中心のよりよいまちづくり・地域づくり

NPO法人 山科醍醐こどものひろば
理事長 村井 琢哉 氏

パネルディスカッション

地域のつながりで子どもの未来を支える

基調講演

子どもが中心のよりよいまちづくり・地域づくり

講師 NPO法人 山科醍醐こどものひろば
理事長 村井 琢哉 氏

関西学院大学大学院人間福祉研究科修了。社会福祉士。
2013年より現職。子どものくらしを支える取り組みの実践を中心に、全国各地で講演等を行う。

『山科醍醐こどものひろば』の活動について

活動を通してめざしているのは、地域に住むすべての子どもの心豊かな成長。若者や地域の方々と力を合わせ、食事をはじめとする生活支援、学習支援、レクリエーションなどを通じ、行政や学校とも連携しながら、子どもがくらしやすいまちづくりに取り組んでいる。



まずは子どもたちと関わりたい 当たり前のようにまちにあり続ける存在として

私たちの活動の根底にあるのは「まずは子どもたちと関わりたい」というシンプルな思いです。関わった子どもたちと向き合っていくなかで、その子の求めているものやその背景にあるものにアプローチして、みんなで活動をつくっていくのが私たちのスタイル。そのため、「どうしたら子どもたちと出会えるのか」ということを常に意識しています。

いつでも子どもたちとともに、地域の中で当たり前であり続けられる存在でありたいと考えています。

「子ども」を主語に置き換えて 地域とともに考えるまちづくり

未来のことを考えるときに、どういうことが起こるとどんな困難が生まれるのか、その困難に対してどんなことをしなければならぬのか、という「見通す力」は、いろいろな経験を積み重ねることによって得られるもの。そういった経験のチャンスがなかった人にとっては、意外と“当たり前”のことではありません。

お金を使わなければ、経験や機会を確保しづらい時代になっています。私たちが大事にしているのは、子どもたちとの出会いから始まる気づきに、地域の方々と一緒にいろいろなアクションを起こしていくこと。子どもがどうしたいのか、どう過ごしたいのかというように、「子ども」を主語に置き換えてみると、子どもを中心としたまちづくりにつながっていくのではないのでしょうか。

今のその子をしっかり見るのが第一歩 「この人たちと過ごしたい」という大人に

私たち大人はどうしても子どもの将来を考え、先々に向けた話ばかりをしてしまいがちですが、それを子ども自身に受け止めてもらうためには、まず「今」のその子をちゃんと見て、認めることが大切です。

困りごとを抱えている子どもほど、何に対しても参加意欲を失っている傾向がありますが、その中でも比較的関心を持ってくれるのは楽しい活動。だったら、キャンプのような活動で子どもたちとまずは出会い、「この人たちと一緒に過ごしたい」と思ってもらうこと。そこから食事の場、勉強の場と継続的な関わりを持つ中で、その子が抱える困難に気づき、新しい活動をつくっていくことが大切であると考えています。



パネルディスカッション

地域のつながりで子どもの未来を支える

パネルディスカッションでは、松本 伊智朗教授を進行役に、北海道内で子どもを支える活動を行っているパネリストから、現状や子どもたちへの思いが語られました。基調講演を行った村井氏との意見交換もあり、多くの参加者が熱心に聞き入っていました。

コーディネーター

北海道大学大学院教育学研究院 松本 伊智朗 教授

パネリスト

NPO法人 陽だまりの家 古山 明美氏

麻生キッチンりあん 西本 香奈江氏

札幌市子どもコーディネーター 沢村 紀子氏

コメンテーター

NPO法人 山科醍醐こどものひろば 理事長 村井 琢哉氏



「安心できる居場所」を提供し 子どもが自ら生きる力を身につけられる支援を

食事・学習支援だけでなく、子どもが安心して楽しく過ごせる居場所を提供したいという思いで活動。団体として財源を生み出すために、着なくなった着物をリメイクし、その売り上げを中高生の学習支援に活用する「きものプロジェクト陽」という活動にも取り組んでいます。運営のことで困った時には、市内のあちこちに相談相手がいって、地域に助けられていると実感する毎日です。活動の中では、子ども自身で生きる力を身につけていけるような関わり方を心がけています。

子どもたちが楽しそうに通う姿を見て、保護者も信頼を寄せてくれて相談を受けることも。信頼関係をつくりながら、家庭の困りごとにも寄り添っていったらと考えています。

パネリスト

古山 明美氏

「陽だまりの家」(恵庭市)を運営。子ども、高齢者、福祉的な困りごとを抱えた方など、広く地域の方々に対して、子ども食堂や学習支援、サロン活動など、さまざまな取り組みを行う。



共通のテーマは「まちづくり」 ともに考える人があふれるまちをめざして

まちづくりをどのように具体化していくかが鍵。支援活動を行う拠点とそこにつながる人、両方の存在が不可欠です。子どもの貧困は行政や研究者だけではなく、考える人をどれだけ増やしていくかが重要です。その中でさまざまな知恵を出し合うこと、それが行政に反映されるルートを作ることも大切。

皆さんの活動やここでの議論も、次のステップを生み出すことにつながるのではないかと思います。

コーディネーター

松本 伊智朗 教授

北海道大学大学院教育学研究院教授。専門領域は、貧困研究、教育福祉論、児童福祉論。社会保障審議会児童部会専門委員、北海道子どもの未来づくり審議会会長、札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会長ほか

子どもも大人もまちも元気に！ 地域が支え商店街が運営する子ども食堂

パネリスト

西本 香奈江氏

麻生商店街振興組合が運営する地域交流カフェ「麻生キッチンりあん」(札幌市北区)で子ども食堂を開催。藤女子大学や学習支援を行う NPO 法人と連携し、子どもの食事や学習、居場所づくりの支援などに取り組む。

原点は、商店街活性化のための大学生のアイデア。「子ども一人でも入れる食堂」「みんなで一緒に食事できる場所」というコンセプトで子ども食堂を開催しています。調理は地域のシニア女性、食材は近郊農家や商店街などの協力を受けています。商店街の組合店が寄付の募金箱を設置してくれたり、地域でチラシを配布するなどの協力もいただいています。活動は月1回。子どもに関わる専門学校の学生や高校生がボランティアとして子どもを見てくれることもあり、保護者から「久しぶりにゆっくりご飯が食べられた」と感謝されることも。

引きこもりがちだった方がボランティアをきっかけに社会復帰したり、「野菜が食べられるようになった」などの声が届くのも、活動を続けていく中で大きな励みになっています。



パネルディスカッションのまとめ

資金繰りやボランティア不足に悩みながらも、地域とのつながりの中で、子どもたちの未来を支えるための活動に取り組んでいます。どんな活動でも「やってみないと分からないこと」はつきもの。どんな時も子ども主体の視点を見失わず、柔軟に対応していくことが求められます。

困りごとを抱えた子どもと出会い、信頼関係を築いて支援につなげるまでの道のりには大きな難しさもあります。また「貧困」に対するイメージには、世代間で違いがあることも。活動する側も生きがいを感じつつ、継続的に長く続けられる仕組みを考えることも課題の一つです。

子どもや若者が豊かに育つ地域は、誰にとっても住みやすい地域であるはずです。一見普通に見える子どもでも、時間をかけて向き合うことで実は困難を抱えていたのだと見えてくることも多いもの。小さくとも「自分にできること」を積み重ねることで、困っている誰かの大きな力になれるかもしれません！

わたしたちができることは？

札幌市の取り組みや、現在、地域で行われている活動について、ご紹介していきます。

札幌市の取り組み

札幌市子どもの貧困対策計画



子どもの将来が、その生まれ育った環境に左右されることなく成長できる社会の実現をめざし、2018年3月に策定しました。

計画の中では、「**相談支援体制の充実**」※が特に大切であるとしています。

※「相談支援体制の充実」
実態調査の結果では、困難を抱えていると考えられる家庭ほど、「相談相手がいない」「制度やサービスを知らない」ということがわかりました。



そこで…

子どものくらし支援コーディネート事業

2018年8月～

相談支援に豊富な経験をもつ「子どもコーディネーター」が、地域に積極的に出向いて、困りごとを抱えた子どもや家庭、まわりの方からの相談をお受けし、必要な支援につなぐ取り組みをはじめました。

どんな相談を受けるの？

経済的な問題をはじめとして、さまざまな相談をお受けします。

たとえば…

- ・おうちのことで困ってる…。誰かに相談のってもらいたい。
- ・子どもの進路で将来的にお金がかかるのが不安…。どこに相談したらいいの？
- ・子どもの様子が心配。どうサポートしたらいいの？

電話での相談はもちろん、地域や家庭を訪問し、お話をうかがいます。

TEL.011-223-4421 (札幌市若者支援総合センター内)
10:00～18:00 (月～金／祝休日、年末年始、センター休館日を除く)

札幌市 ホームページ 子どもコーディネーター [検索](#)



費用
無料



北・東・白石・
豊平・清田・
西区の一部地区で
実施しています。
(2019年3月現在)

地域での支えあい

子どもの居場所づくり

地域では、子ども食堂や学習支援など、子どもが安心して過ごせるさまざまな居場所づくりの取り組みが広がっています。

居場所づくりに取り組む団体にお話をうかがいました！

子ども食堂を運営している NPO法人 子どもの未来・にじ色プレイス



NPO法人 子どもの未来・
にじ色プレイス
代表理事 安田 香織 氏

子ども食堂は、温かい手づくりの食事を通して、子どもと大人がつながる場です。子ども食堂以外にも、地域の大人が子どもを見守るコミュニティとして、子どもや若者の居場所、学びの場づくりも行っています。まずは、地域の子どもの挨拶など、身近なところからはじめてみませんか？子どもたちに、関心を持っているよというサインが伝わるのが大切だと考えています。



学習支援を実施している NPO法人 Kacotam (カコタム)



NPO法人 Kacotam
(カコタム)
理事長 高橋 勇造 氏

環境に左右されない楽しい学びの場をすべての子ども・若者へという思いから、施設や地域での学習会等の場において、学習サポートを行っています。1対1の個別的な関わりを軸に、子どもの抱える悩みや困りごとと一緒に考えていきます。子どもにとっての居場所となるためには、学びの場が地域全体に根づいていくことが大切だと考えています。



団体同士のつながりもあります

◆こども食堂北海道ネットワーク

地域で子ども食堂等を運営している団体の学習会や交流会を開催。団体同士の情報交換・意見交換の場となっています。
<https://ameblo.jp/kodomosyokudo-hokkaido/>

活動に関心のある方は？

◆NPO法人 北海道 NPOサポートセンター

子どもの居場所の開設を考えている人からの相談や、ボランティア等で支援したい人の結びつけを行っています。
<http://npo.dosanko.org/>

札幌市では、子どもの居場所づくりに取り組む団体をガイドブックで紹介しています。 [札幌市 ホームページ 子ども食堂](#) [検索](#)

フードバンク活動

規格外食品などを引き取り、必要としている福祉団体や施設に無料で提供する活動です。

企業・団体・個人

フードバンク

福祉団体・施設など

札幌市 ホームページ フードバンク [検索](#)



NPO法人 札幌市福祉生活支援センター
フードバンク札幌運営委員会
総括参事 大滝 栄一 氏

十分な安全性がありおいしく食べられるにもかかわらず、規格外や形が悪い、食べられないなど様々な理由で廃棄される大量の食品。これらを企業や個人から寄贈していただいて点検・整理し、必要とされる方々へ再分配する活動を行っています。

子ども食堂など子どもの居場所に対する食材支援も行っており、地域の活性化につなげていければと思っています。

